■第三者評価結果票（兵庫県 様式６）

［認知症対応型共同生活介護 用］

１． 第 三 者 評 価 結 果 概 要 表

作成日：平成20年４月29日

【評価実施概要】

事業所番号	2874500370		
法人名	社会福祉法人　香美町社会福祉協議会 香住ふれ愛介護センター		
事業所名	グループホーム「かがやき」		
所在地	（〒 669-6401 ） 兵庫県美方郡香美町香美区無南垣96番地		
		電話	0796－38－1500
評価機関名	特定非営利活動法人　ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区萩乃町２丁目２番14－703号		
訪問調査日	平成20年3月6日	評価確定日	平成20年4月29日

【情報提供票より】〔平成20年3月20日 事業所記入の同書面より要点を転記〕

（1）組織概要

開設年月日	平成15年4月1日 （市町村合併により平成17年4月1日～ 香美町社会福祉協議会）	
ユニット数	１ユニット （利用定員…計９人）	
職員数	７人	（常勤６人）（非常勤１人） / 常勤換算７人

（2）建物概要

建物構造	木造平屋造り
	地上１階建て建物の １階部分

（3）利用料金等 （介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	０円	その他の経費（月額）	26,700円
敷金の有・無	有り （ 円） ・ 無し		
保証金の有・無（入居一時金含む）	有り （ 円） 無し	（保証金有りの場合）保証金償却の有・無	有り ・ 無し
食材料費	朝食 200円	昼食	300円
	夕食 400円	おやつ	100円
	または、１日あたり	1,000円	

（4）利用者の概要 （平成20年3月6日 現在）

利用者人数	計９名 … （男性１名） （女性８名）		
要介護１	４名	要介護２	０名
要介護３	３名	要介護４	２名
要介護５	０名	要支援２	０名
年齢	平均85.7歳 … （最低75歳） （最高90歳）		

（5）協力医療機関

協力医療機関名	公立香住総合病院 下山病院 蔵野歯科医院

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR「佐津」駅から徒歩10分程に在り、通所介護事業所も併設されている。地元の社会福祉協議会が運営するホームであり、地域や、利用者・家族からの信頼度は高い。記録・関係書類は適切に整備され、管理者のケアに対する意識が感じられる。共有空間や居室は広くゆったりし、居間には皆の憩いの場所として大きな炬燵スペースがあるほか、利用者の状態や使用目的に合わせて配置を変えることのできるテーブルを用いるなど、日々の生活に細かな工夫がなされている。前回の評価のあと、地域密着型サービスへの新たな取組みとして、民家を改修した「畑の家」を開設しており、地域住民との交流拠点としても今後の展開が楽しみである。これら利用者支援においての課題に前向きに取り組んでいるホームである。 ◎添付の資料写真も参照

【重点項目への取組状況】

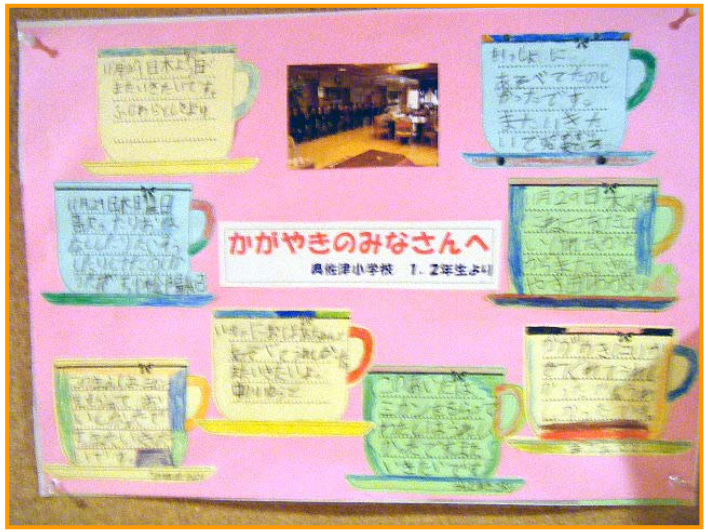
重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：第三者4） 前回の課題として挙げられていた ①介護計画の見直しや服薬の支援については改善されている。②入居者の尊厳については、管理者の指導のもと職員意識の変化が見られるようになった。③1人で出来ることへの配慮、金銭管理への支援については、今後の研修やマニュアルの整備などが求められる。④事故対策等の職員間の記録の共有化については、今後の課題である。 今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：第三者4） 全職員へのヒアリングを実施したうえで、これを管理者がまとめた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：第三者4，5，6） 運営推進会議を、職員の意識付けの場としても役立てている。会議をきっかけに地域交流に努めてはいるが、閉鎖的な地域性もあり、まだまだ途上である。他の事業所との連携に積極的であり、その効果も表れてきているので、今後に期待したい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：第三者7,8） 家族等への報告は定期的に行われている。家族会における家族の出席が半数くらいであり、なかなか率直な意見や苦情を申し出にくいようでもあるので、あらかじめテーマを絞り案内をするなど、工夫してみてはどうか。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：第三者3） 閉鎖的な地域性から、地元との関係性を構築するにはまだまだ時間がかかると思われるが、併設デイサービスや「畑の家」を活用した地元との交流など、徐々に取り組みが実を結んでいっているので今後が楽しみである。地域への知識還元としての学習会等の開催も検討されるなどし、地域との連携を深めていってもらいたい。

【資料写真】 訪問調査時（H20.03）に撮影

事業所＝グループホーム「かがやき」

◎地域とのつきあい

近所の皆さんとお茶会



地域の小学生からのメッセージ

幼稚園児が「芋掘り」に来訪
入居者と一緒に1日を楽しむ…

「畑の家」でお茶を楽しむ…

◎居心地のよい共用空間づくり

皆が集まる炬燵

組み合わせ自由のテーブル

◎社会的生活の支援

それぞれに役割ごとをもって…

◇所定の書面に添える資料として、事業所の了解も得て掲載するものです。◇評価結果の活用（ケアサービスの向上、地域の方々の高齢者介護への理解…など）に、ご参照・お役立て下さい。
◇ プライバシーの配慮、個人情報保護の観点から、誠に失礼ながら、ケアサービス利用者のお顔などについて適度の処理を施しています。（処理不要のお申出があるときはこの限りにありません。）

評価機関＝特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所

▲中　庭（日々の暮らしの温もりを感じる）

▲建物外観

▲収穫野菜による一品

▲家庭菜園

◇所定の書面に添える資料として、事業所の了解も得て掲載するものです。◇評価結果の活用（ケアサービスの向上、地域の方々の高齢者介護への理解…など）に、ご参照・お役立て下さい。
◇ プライバシーの配慮、個人情報保護の観点から、誠に失礼ながら、ケアサービス利用者のお顔などについて適度の処理を施しています。（処理不要のお申出があるときばこの限りにありません。）

２．　第　三　者　評　価　結　果　票

外部評価	自己評価	評　価　項　目	評価機関が確認した「取り組みの事実」（実施している内容・実施していない内容）	今後、取り組みを期待する項目を○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」（すでに着手していることを含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	社会福祉協議会の理念 「その人が、その方として、その方らしく お暮らしになれるよう お支えします。」をもとに ①安心と尊厳のある生活を支援します。②その人のあるがままを受け入れて自立支援します。 ③地域住民として「普通に暮らす」ことを支援します。 …との取組みがなされている。	○	隣接するデイサービスの機能を活用し、地域におけるコミュニティ機能としての活用が課題となっている。休館日における具体的な取組み目標を明確にし、地域への情報発信が望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月１回のミニカンファレンスを中心に、職員間における情報の共有化を図っている。理念を日々のケアに反映させるため、研修も計画的に行っており、記録類が整理把握されている。	○	ケアの内容から、課題の抽出をする必要があり、その為には職員の資質を向上させ、自覚を持たせる事が大切である。今ある記録類を活用し、管理者による改善目標立案のフォローが期待される。
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の祭りや運営推進会議を活かした取組みがなされているが、自治会や老人会への参加には地域的に偏見もあり、まだできていない。中学校の公開授業への参加、幼稚園児に対してのイモ堀の開催、Xマス会への参加などが行われており、グループによる散歩なども取り入れている。	○	今後、家族会などを利用し、手作り料理を持ち寄るなど地域との接点を作っていくことが期待される。
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価における段階で、各職員の意識付けがされており、日々のケアに反映させる為のツールとして活用している。回数を重ねることにより、継続性のある取組みとなっている。	○	職員の意識付けが課題であり、より一層の取組みが期待される。事故防止に関する取組みでは、もう少しテーマを絞り込んでみてはどうか。

外部評価	自己評価	評　価　項　目	評価機関が確認した「取り組みの事実」（実施している内容・実施していない内容）	今後、取り組みを期待する項目を○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」（すでに着手していることを含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催（3ヵ月に1回）されているが、具体的な意見が出にくいようである。	○	会議の開催にあたり、予めテーマを絞り込んでおくことも必要かもしれない。事前の意識付けをする事により、課題も見えやすくなると思う。
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	3区が合併したため、お互いの情報交換の場として、関係機関や他事業所との連携が出来ている。社会福祉協議会を通じてのボランティアなども活用されている。		
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の状況報告では、ケース記録や「かがやき」だよりとともに、預かり金報告書（主に医療費の明細など）も送付しており、家族会開催時などの機会にも報告している。	○	預かり金規程を作成してもらいたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会（3ヵ月に1回開催）への参加は約半数。意見や要望を聴取する機会が少ないので、アンケートなど意見の出し易い方法を検討中。苦情や意見への対応の仕組みは、できている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者と職員の人間関係を重視し、極力異動をしないようにと心掛けているが、運営組織として対応が難しいこともある。来年で定年を迎える職員が複数いるため、若い人材を確保し育てていく予定。事業所の理念にあった職員を採用している。認知症介護に不向きな職員は異動をしている。	○	馴染みのある職員が退職する場合、経過的な時間を持つことで利用者の不安が解消される場合もあるので、退職後の係わりも考慮してもらいたい。

外部評価	自己評価	評　価　項　目	評価機関が確認した「取り組みの事実」（実施している内容・実施していない内容）	今後、取り組みを期待する項目を○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」（すでに着手していることを含む）
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資質向上について、積極的な取組みが見られる。外部の研修について情報提供し、内部の研修では現場からの意見を取り入れた計画になっている。介護福祉士の資格取得に対する助成金制度もあり、勤務体制についての配慮もされている。若い人材を育てるため、OJTを活用した取組みの中で「観察の重要性」を伝えるようにしている。研修の受講について、多くの職員が参加できるよう考慮している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内での同業者の交流や研修が行われており、管理者は積極的に参加をしている。但馬管内における事業所（4か所）についての認知症GH連絡会が今年3月から行政のコーディネートにより開始される予定。他の福祉施設職員との交流も積極的に行われている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所や併設デイサービス利用者との関係作りを行っている。家族の希望があれば、宿泊も受け入れている。現実には、本人の希望で入所に至るケースはほとんどない。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者中心の介護を心がけており、職員も利用者に選ばれているという意識付けを大切にしている。その為には、利用者の日常態度や非言語的なコミュニケーションを理解することが求められ、職員間の情報共有が重要なことと認識している。	○	今後も継続的な取組みを続けていくことを期待する。

外部評価	自己評価	評　価　項　目	評価機関が確認した「取り組みの事実」（実施している内容・実施していない内容）	今後、取り組みを期待する項目を○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」（すでに着手していることを含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員による日常的な観察が主であり、自治会や日々の生活の中から本人の意向を確認するような取組みがされている。		
2．より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	職員の積極的な取組みを促すため、BS（ブレーンストーミング）法を採用し実践している。グループ分けされた入所者担当職員により、計画書の作成をチームで取り組んでおり、ミニカンファレンスの内容を計画に落とし込む努力をしている。	○	日常の小さな情報の記録が、利用者の介護計画作成の上で役立ち、職員の意識を高める取組みを継続させることが期待される。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	原則として3ヵ月に1度の見直しがされており、状況の変化や状態が変わればその都度見直しをしている。家族への計画書の説明では、家族からの意見が出し易い環境作りを心掛けている。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	他事業所との交流を年2回行っており、併設のデイサービスやミニデイ「畑の家」を活用した取組みがなされている。社会福祉協議会を活用し、広範囲な情報提供にも成果が見られる。社会資源の開発にも継続的な取組みがなされている。	○	情報発信については、今後更に広がると思われるので、個人情報に関する取り扱いに十分な注意を払われることを期待する。

外部評価	自己評価	評　価　項　目	評価機関が確認した「取り組みの事実」（実施している内容・実施していない内容）	今後、取り組みを期待する項目を○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」（すでに着手していることを含む）
4．より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的（月2回）な受診がされており、嘱託医（下山医院）との連携がよい。状況変化に対応する連絡や他の専門医への紹介など、必要に応じた対応がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期における家族の意向を把握し、嘱託医との連携や職員間における方針の共有化ができている。今後も運営推進会議などを活用し、家族との話し合いを継続させていく方針である。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** （1） 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々のミニカンファレンスを中心に、スタッフ間の振り返りを促す取組みがなされている。入所時に家族や本人に対し個人情報使用同意を取っている。写真の掲載同意については別の同意書が用意されている。	○	介護職員の守秘義務についても、関係法令などに照らし書面化しておきたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	まだまだ、利用者本位の生活支援をするための職員意識の改革が出来ていない部分が見られる。個人の安らぐスペースの確保についても、もうひと工夫が求められる。今後、利用者の生活歴の把握など、積極的な取組みが必要である。	○	利用者の個々の価値観を把握する方法を考えてみてはどうか。例えば利用者情報の持ち寄りシートの導入など。

外部評価	自己評価	評　価　項　目	評価機関が確認した「取り組みの事実」（実施している内容・実施していない内容）	今後、取り組みを期待する項目を○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」（すでに着手していることを含む）
（2） その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや片付けなど、それぞれの利用者が出来る事を積極的に行っている。調理についても、生活の中で食事が大きなウエイトを占めていることを認識し、買い物の内容によってはメニューを変更するなどしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夕食の前後に分け、本人の希望に沿った時間帯の入浴を心掛けている。最近、併設のデイサービスを活用して週1回の集団入浴に取組んでいる。		
（3） その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の方の「思い」、「生活歴」に焦点をあてた取組みをしている。季節に合わせた外出や、趣味への誘いなどへ努め、その人らしい生活を支援するよう見守りもしている。お正月には、皆でおせち料理を楽しみ、利用者も着物を着用し初詣に出かけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常、施錠はせず、いつでも外出できる環境を確保している。地域におけるイベントへの参加や、花見、花火見物などもしている。中学校の公開授業の参観や運動会参加も行われている。		
（4） 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	個々の行動パターンを把握し、日中鍵をかけない取組みが行われている（夜間は防犯上、施錠している。） 補助的な観点から、センサーによる見守りは併用している。		

外部評価	自己評価	評　価　項　目	評価機関が確認した「取り組みの事実」（実施している内容・実施していない内容）	今後、取り組みを期待する項目を○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」（すでに着手していることを含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年間3回、消防署による防災訓練を行っている。香美町社会福祉協議会防災管理ハンドブックを各職員に配布し、職員意識の高揚を図ると共に、「かがやき」だよりにも報告を載せている。	○	平成23年度にスプリンクラーの設置を検討している（現在、予算化へ向けて取り組み中）。
（5） その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の嗜好に基づいたメニューを提供するよう、食材の選択や味に注意している。特に水分補給については、ペットボトルを用いた目標水分量の残量チェックを行ない、水分摂取量チェック表も活用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1） 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた生活空間を提供している。冬場は「こたつ」を中心に、その他の季節は「イスとテーブル」を設置し、夏場は中庭のウッドデッキも活用した家族会などの取組みも行なわれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室は広いものの、建設当初から収納スペース（押入れ）が設けられていないため、少し殺風景に感じなくもない。そのことも含め、家族や運営者と話し合いながら、居室としての環境作りの取組みを始めている。	○	家族にも協力を求め、また、運営者にもそのことを説明し、家具や収納スペースを増やしていってもらいたい。

※ ▨ は、重点項目。